



自分の名前をうまく書けたら…。筆まめの会代表の齋藤さんは、そんな軽い気持ちで町が主催した、かな書道教室に参加しました。その翌年には、20名の参加者ほとんどが継続を希望し「まめに筆を持って気軽に書いていきたい」との想いを込めて『筆まめの会』を発足させます。講師を務める兼松さんの指導は優しく丁寧、それでいてやる気を失わせない絶妙のバランス。その穏やかな人柄と流れるような文字を生み出す筆の運びに魅せられ、現在4つのサークルが活動しています。

文字を二字、三字とつなげて書く、連綿のかな文字が織り成す微妙な濃淡は、墨の持つ美しさの象徴です。静かに墨をする一。その瞬間から書への道は始まり、みっちり2時間ひたすら練習します。

お手本に習って書く「臨書」が基本ですが、その題材はそれぞれが、手本の中から好きなものを選ぶことができます。色紙や半懐紙、短冊などに認められるのは万葉集、古今和歌集、百人一首などの一節。日常生活にはない雅やかな古典に触れることで、新たな芸術への興味も

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第26回 書道サークル 『かな書道教室』

- ①活動歴 6年
- ②年齢層 40代～80代の女性
- ③活動場所 コミュニティプラザ
- ④活動時間 第2・4水曜日
① 9:30～11:30 ② 19:30～21:30
第2・4木曜日
③ 13:30～15:30 ④ 19:00～21:00
- ⑤代表者 ①『筆まめの会』代表 齋藤文江
②『筆ふみの会』代表 有田紀美江
③『いろは会』代表 渡邊まさ子
④『かなほたる会』代表 内堀和子

膨らんでいきます。年齢が上の人ほど不思議と集中力が持続し、周囲もその真摯な姿に刺激を受け、人生の先輩に負けまいと筆を走らせます。筆の運びに納得がいかないときには、挫折しそうになることも…。

そんな一人ひとりの心の内を、兼松さんは一番後ろの席から静かに見守り、励ますように添削の朱墨を入れていくのです。

どのサークルにも共通しているのは、流派にとらわれず、優劣にこだわらないこと。展覧会へは出品しますが、賞がつくものには希望者のみが出展します。年代も職業もさまざまなら、作品も人それぞれで「みんな違って、みんないい」と齋藤さんは話します。親子3代にわたるほど会員の年齢に開きはありますが、時には花見を兼ねながら、お手本を書いている著名な先生の書を見に行くなどして、互いの交流を図るのも楽しみのひとつです。

美しい字への憧れ一。書はその“人となり”を映し、感性の扉を次々に開いていきます。一生をかけて一つの作品に取り組むのもいいでしょう。あなたもまずは「い・ろ・は」から始めてみませんか？



編集後記

★気持ちの良い天気がいっぱい続いたので、自転車での運動も再開することに。朝は時間もないので軽めに、4kmの距離を栗山川に沿って牛尾の新井橋へ。そこからさらに足を伸ばし、ペダルをこくと約1時間。足は当然たるくなりですが、何故か腹筋も張ってきます。このメタボリックなポッコリお腹にも効果があるのかも♡と、微かな希望も湧いてきました。ところが、心の中で「今回は長く続けるぞ!!」と固く誓ったのもつかの間、今月号の編集が始まると自転車もお休みすることに…★そんな私の前に救世主が現れました。それは小学生の娘と息子の2人。「サイクリングへ行こうよ」と誘ってくれたのです。まさに「渡りに船、私に自転車」でした。親子と一緒に走ってみると楽しさも格別です。子供も喜んでくれ、すっかり気を良くした私。その口から出た言葉は「夏休みには栗山川に沿って海まで行こうよ!!」果たして、その実現やいかに…。乞うご期待!

★話すことが生きがいの私も、さすがに締め切りが近づくこと無口…。4時に原稿を入れるため、悶々とパソコンに向かっていたお昼前、おいちゃんはやって来た★麦茶や唐辛子を売りに来るそのおいちゃんは「お嬢ちゃん、今日はいらないの?」と言葉巧みに歩み寄り「買わないとおいちゃんが後悔するよ」なんて言ったりします★手相を見るのが特技(笑)で、一刻の猶予もない状況下の私も、左手を差し出すことに…。実は前にも見てもらったのだが、数年前とはほぼ同じこと事を言うから驚かされる!!★「あなたは今には困らないけれど、金はたまらないよ。加えて「だけと体は一生休まらねえな。丈夫だけに」と★喜ぶべきか悲しむべきか…。最後に「おめえは俺と暮らせば、女の幸せが味わえっ」とおいちゃん、あなたは78歳…。しかも、とうの昔に失われた「女の幸せなんか私はいらないの。この話をおかずに義母とおいしくお昼ご飯を食べ、小さな幸せを満喫♡やっぱり色気より良い気ですよ!!」